

中学歴史プリント（過去問類似）

昭和時代（戦後）

名前

得点

/8

問1 日本が第二次世界大戦後に独立を回復してから、国際社会へ復帰するまでの経緯について述べた文として、正しいものはどれですか。（2026年 富山公立入試 類似）

- 1956年に日ソ共同宣言を調印してソ連との国交を回復したのち、同年に国際連合への加盟が承認された。
- 1951年にサンフランシスコ平和条約を調印して主権を回復したのと同時に、国際連合への加盟が認められた。
- 1972年に日中共同声明によって中国との国交を正常化したのち、初めて国際連合への加盟が承認された。
- 国際協力会議の提唱により、アジア諸国との戦後賠償問題をすべて解決した直後に国際連合へ加盟した。

問2 1964年の東京オリンピック開催に合わせて開通し、東京と新大阪の間を結んだ日本初の高速鉄道の名前を答えなさい。（2024年 長崎公立入試 類似）

- 東海道新幹線
- 山陽新幹線
- リニア中央新幹線
- 北陸新幹線

問3 1972年に実現した沖縄の日本復帰について、当時の佐藤栄作首相が進めた交渉の背景や条件として正しいものを選んでください。（2025年 福岡県公立入試 類似）

- 核兵器を持たず、作らず、持ち込ませないという非核三原則を堅持し、核抜き・本土並みの条件で返還された
- サンフランシスコ平和条約の発効と同時に、自動的に日本の行政権が回復するようあらかじめ約束されていた
- アメリカ軍基地をすべて撤退させることを条件として、日米地位協定の全面改定と同時に返還された
- 日中国交正常化の交渉過程において、中国側の仲介によってアメリカとの返還合意が成立した

問4 第二次世界大戦後の日本の外交と社会運動に関する記述として、歴史的な背景や経緯が正しく説明されているものはどれですか。（2015年 佐賀公立入試 類似）

- 日本は1951年にサンフランシスコ平和条約を結んで独立を回復し、その約10年後には条約改定をめぐる安保闘争が起きた。
- 1951年のサンフランシスコ平和条約によって、沖縄は日本への返還が即座に決定し、主権回復と同時に日本に戻った。
- 1960年の安保闘争は、サンフランシスコ平和条約を破棄してアメリカ軍を完全に撤退させることを目的とした運動であった。
- 沖縄の返還は1972年に行われたが、これは日本がサンフランシスコ平和条約を締結するよりも前の出来事である。

問5 1956年に日本とソビエト連邦（ソ連）との間で調印された「日ソ共同宣言」の内容とその影響について、正しい説明はどれですか。（2021年 岐阜公立入試 類似）

- 両国の戦争状態が終結して国交が回復し、ソ連の支持を得て日本の国際連合加盟が実現した。
- 日ソ両国の間で正式な平和条約が締結され、北方領土の返還問題がすべて解決した。
- サンフランシスコ平和条約と同時に調印され、日本は独立の回復と同時にソ連との国交を樹立した。
- 日本が中国（中華人民共和国）との国交を正常化させるための前提条件として、ソ連と合意した。

問6 日本の経済成長率の推移を示した資料において、1974年に成長率が0%を下回り、戦後初めてのマイナス成長を記録している地点があります。このような経済状況をもたらした国際情勢の背景として、最も適切なものはどれですか。（2015年 大分県公立入試 類似）

- 第4次中東戦争の勃発を受け、アラブ諸国の産油国が石油の輸出制限や価格引き上げを戦略として用いたこと。
- ニューヨークの株式市場での暴落をきっかけに、欧米諸国が自国経済を保護するためにブロック経済を形成したこと。
- アメリカ合衆国がドルと金の交換を停止したことにより、固定相場制から変動相場制へと移行し、円高が急激に進んだこと。
- 冷戦の終結に伴い、旧ソ連や東欧諸国が市場経済に参入したことで、世界的な供給過剰と価格競争が激化したこと。

問7 1950年代から約20年間続いた日本の急速な経済発展は、1973年にある出来事が発生したことで終わりを迎え、翌年には戦後初のマイナス成長を記録しました。そのきっかけとなった出来事はどれですか。（2018年 埼玉県公立入試 類似）

- 第4次中東戦争の影響による石油危機（オイル・ショック）
- 円高不況を回避するために行われたブラザ合意
- 過度な不動産投資の失敗によるバブル経済の崩壊
- 朝鮮戦争の発生に伴う特需景気の終息

問8 日本の高度経済成長期における交通網の整備について述べた文として、東海道新幹線の特徴や背景を正しく説明しているものはどれですか。（2024年 長崎公立入試 類似）

- 東京オリンピックの開催に合わせて、東京と新大阪を結ぶ高速鉄道として開通した。
- 大阪万国博覧会の開催に合わせて、新大阪と博多を結ぶ全線高架の鉄道として開通した。
- 高度経済成長の鈍化を受け、公共事業を抑制するために既存の在来線を改修して導入された。
- 超電導リニア技術を世界で初めて採用し、時速500キロメートル以上の営業運転を開始した。

答え合わせ・解説

| | | |
|----|---|--|
| 問1 | 答え 1 1956年に日ソ共同宣言を調印してソ連との国交を回復したのち、同年に国際連合への加盟が承認された。 | 1951年にサンフランシスコ平和条約を締結して主権を回復した日本ですが、当時は冷戦の影響により、常任理事国であったソ連が日本の加盟に反対していました。その後、1956年に日ソ共同宣言によってソ連との国交を回復し、戦争状態が終結したことで、ようやくソ連の支持を得て国際連合への加盟が実現しました。サンフランシスコ平和条約と国際連合加盟には、5年の開きがある点に注意が必要です。 |
| 問2 | 答え 1 東海道新幹線 | 高度経済成長期の1964年、日本初の高速鉄道として東海道新幹線が開通しました。これは東京オリンピックの開催に合わせて整備されたもので、戦後日本の復興と技術力の高さを世界に示す象徴となりました。選択肢にある山陽新幹線は、その後に関西から博多まで延伸された路線です。 |
| 問3 | 答え 1 核兵器を持たず、作らず、持ち込ませないという非核三原則を堅持し、核抜き・本土並みの条件で返還された | 沖縄はサンフランシスコ平和条約以降もアメリカの施政権下に置かれていましたが、佐藤栄作首相は「核抜き・本土並み」の条件で返還を実現させるべく交渉を行いました。この際、日本が核兵器を持たず、作らず、持ち込ませないという「非核三原則」を表明したことが、返還交渉を前進させる大きな背景となりました。佐藤首相はこの功績などにより、後にノーベル平和賞を受賞しています。 |
| 問4 | 答え 1 日本は1951年にサンフランシスコ平和条約を結んで独立を回復し、その約10年後には条約改定をめぐる安保闘争が起きた。 | 1951年に締結されたサンフランシスコ平和条約により、日本は連合国軍の占領から脱し独立を回復しました。同時に日米安全保障条約も結ばれましたが、1960年にその内容を改定しようとした際、軍事協力の強化を懸念した人々によって激しい安保闘争が展開されました。沖縄の返還はこれよりも遅く、1972年に実現しています。 |
| 問5 | 答え 1 両国の戦争状態が終結して国交が回復し、ソ連の支持を得て日本の国際連合加盟が実現した。 | 鳩山一郎内閣によって署名されたこの宣言は、平和条約の締結を待たずにまず戦争状態を終結させ、外交関係を回復させることを目的としていました。これにより、安全保障理事会の常任理事国であったソ連が日本の国際連合加盟を支持する姿勢に転じたため、同年12月に日本の国連加盟が承認されました。 |
| 問6 | 答え 1 第4次中東戦争の勃発を受け、アラブ諸国の産油国が石油の輸出制限や価格引き上げを戦略として用いたこと。 | 1970年代前半までの日本は高度経済成長を続けていましたが、1973年に始まった石油危機（オイル・ショック）によって大きな転換点を迎えました。アラブ石油輸出国機構（OAPEC）などがイスラエルを支持する国々への石油供給を制限し、価格を引き上げたことで、エネルギー価格が急騰しました。これが日本国内の生産コストや物価を直撃し、1974年のマイナス成長という経済的な落ち込みを招きました。 |
| 問7 | 答え 1 第4次中東戦争の影響による石油危機（オイル・ショック） | 1973年に第4次中東戦争が勃発し、産油国が原油価格を引き上げたため、エネルギー資源の多くを輸入に頼っていた日本は激しいインフレ（狂乱物価）に見舞われました。これにより、1950年代半ばから続いていた高度経済成長は終焉し、その後の日本経済は安定成長期へと移行することになりました。 |
| 問8 | 答え 1 東京オリンピックの開催に合わせて、東京と新大阪を結ぶ高速鉄道として開通した。 | 東海道新幹線は1964年に開通し、日本の二大都市圏である東京と大阪を高速で結びました。これにより人々の移動時間が大幅に短縮され、ビジネスや観光に劇的な変化をもたらしました。これは、当時の「国民所得倍増計画」などに代表される経済発展を支える重要なインフラとなりました。 |